

豊かな森を守ろう！ 取り戻そう！

— 目 次 —

・山を買いました	1 P	・森づくり講演会要旨	6 P
・外資による山林買収	2 P	・アンケート結果	7 P
・特報！！ 設楽ダム問題	3 P	・秋の植樹祭	9 P
・公開記念公園会のお知らせ	4 P	・アンケート結果	10 P
・夏の自然観察会	5 P	・植樹裏話	11 P
・アンケート結果	5 P	・寄付をいただいた方々	12 P

山を買いました！

NPO森を再生する会 理事長 神谷輝幸



NPO森を再生する会では設立当初から水源地を守ることを定款で定め山を購入資金として一人1万円を寄付していただきました。本年度、この資金で、奥三河地方の一角設楽町納庫地区の山林1万8千㎡を購入しました。標高800mを越え、スギ・ヒノキの人工林と頂上付近は広葉樹で覆われ、せせらぎが小さな沢を潤している場所です。「沢ガニがいるよ」「水が甘い」と視察に訪れた会員の声。ここは安城市など西三河地方を流れる矢作川の水源地に当たる場所です。水源地として

永久に保全する場所にふさわしい所です。

中国ファンドが、日本中で山を買いあさっている！北海道では松川市、ニセコで実際外国人に所有権が移っている事実が確認されています。私たちは戦後拡大造林政策によって全国の山にスギ・ヒノキが植林され、手入れされないまま荒れている山を放置するに忍びなく、自分たちの手で広葉樹に林層転換する活動を進めてきた。同時に、山主の同意が得られないことが予想されるために自分たちで山を買う運動を進めてきました。このところ外国人が日本の山を買いあさっている不気味な動きに対しても、水源地を買い取りトラスト地として永久保存をすることの意味が大きくなってきました。私たちの運動は小さいけれども、国や自治体が日本の山の保全に動き出してくれる為の啓蒙運動して先駆的で大きな意味があります。

ちなみに、去年は8月と10月に国会に向き各会派の議員に会い、超党派の議員連盟の設立をお願いし、荒れた山を保全するための法律を作り予算化してくれるように要望してきました。鳩山邦夫議員は30分私たちの話を聞いた後、私に任せてください、全国会議員に呼びかけて議員連盟を作りますからと力強い約束をいただきました。その結果、10月5日に奥山水源の森保全議員連盟設立総会を開く運びになったから、国会まで出かけるように連絡があり設立総会をこの目で確かめることができ感激しました。



左から熊森協会事務局員、エコ林業 平野虎丸氏
熊森協会 森山まり子氏、鳩山邦夫氏、森を再生する会 神谷輝幸氏、杉浦彦展氏

外資による山林買収 状況

公有化や利用規制を！

「戦後社会は、倫理をもふくめて土地問題によって崩壊するだろう」（司馬遼太郎『土地と日本人』（中公文庫、1980年））

かつて司馬遼太郎は日本の土地制度を嘆き、そう警鐘を鳴らしたが、今、それが現実のものとなりつつある。

— 外国資本が日本の森林を買っている。 —

最近、マスコミがこの話題を取り上げることが多くなった。そうした外国の動きは国境離島でも見られる。2010年2月、長崎県五島列島の福江島に上海資本の視察団が現れた。地図を見ると、福江島は上海から日本への最短距離にあたる。一行は五島市長への表敬訪問も行い、島での林業経営や別荘地開発等に関心を示した。周到な計画をもって今も地元関係者との交渉を続けている。

鹿児島県奄美大島の一角でも動きがある。国際的な海運会社グループが、住民の2度にわたる猛烈な反対運動にもかかわらず、すでに1億6千万円を投じ、山林買収とチップ工場の建設を進めている。

こうした中、北海道が全国で初めて実態調査を行った。それによると、外国資本が所有する林地は道内で少なくとも33カ所、計820ヘクタール（10年11月現在）。うち3カ所、計109ヘクタールは自衛隊駐屯地から約3キロメートル内に位置する。所有企業、個人の所有地は香港が12社と最も多く、他に英領バージン諸島所在の1社も香港資本であった。（以下省略—WEDGE2011年2月号より引用）

外国企業等が取得した北海道の林地（H21年）（「Will」2011年1月号より引用）

No	市町村	面積 ha	国名	備考	No	市町村	面積 ha	国名	備考
1	欄越長	58	中国	法人	5	倶知安町	36	ニュージーランド	個人
2	ニセコ町	1	中国	法人	6	ニセコ町	6	オーストラリア	個人
3	倶知安町	2	中国	法人	7	日高町	11	シンガポール	個人
4	砂川町	292	イギリス	法人	計		406		

上記は外国企業等が取得した山林情報のほんの一部です。現状では森林1ha以下の売買は知事等の許可を得なくても自由に売買できるので正確に把握できないのです。

近く「水戦争」が起きる！

中国は建国以来、周囲の国々や民族、あるいは自国民からひたすら奪う事で成長してきた国です。日本人がほとんど頓着していないが、近年の中国での水不足は我々の想像を超えてたレベルなのです。日本の水を狙っていると考えられています。

<特報！！ 設楽ダム問題>

— 設楽ダム建設中止！愛知県民会議の提案より転載 —

1、設楽ダムの建設中止に向けて、立ち止まる勇気を！

奥三河地域（豊川水系）では、設楽ダムは、利水、治水ともに必要ありません。その上、設楽ダムの建設は、愛知県随一の豊かな自然が息づく豊川（寒狭川）上流から、アサリ湧く三河湾まで、取り返しのつかない深刻な環境破壊をひき起こします。今こそ冷静な判断をするべき時です。立ち止まる勇気を持つようではありませんか。

事業の推進意見しか出てこない地元市町の首長による検討会を開いても何の役にも立ちません。都合の悪い事実には蓋をしてダム造りに狂奔してきた国土交通省中部地方整備局自身が検証するというのでは、誰も信用しないでしょう。再検証は、住民、県民、専門家の参加した検証組織で誰もが納得できるまで十分な議論を深める形で進めるべきです。

2、水源地域～奥三河地域の振興策

○面積比率80%を超える山林の生産・保全・管理の仕事に、まず重点投資することが大切です。過密なスギ・ヒノキ人工林の適正～強間伐によって下生えが増え、森林土壌の雨水浸透性が増します。その結果、洪水規模は小さくなり、また、日照りが続いても水が潤れなくなります。（この経済効果は絶大です。）切り出される間伐材の利用の仕組みを工夫することによって、様々な林産物の工夫・流通の分野や、バイオマス分野への仕事、雇用も増やすことができます。

明るくなった森林では生物多様性がグンと増し、生物の種類が増えて、山菜・生薬・花卉・キノコ類など林産物の利用の可能性も広がると同時に、耕作地への獣害も減ります。

○豊かな森林と清流は保健休養機能を最大限発揮します。豊かな自然を舞台として、自然学習や山林学習や山村体験ツアーなど、長期滞在型の3次産業成長も可能です。自然史（誌）博物館、薬草・薬木園、エコツーリズムの専門校、自然公園保護管理所などの設置がこれを支えていく保障となります。

○人工林の手入れは、CO2 排出カットにも貢献するので、カーボンオフセットにより水源地域の収入を確保していくことも可能となります。

◎以上のような取り組みによって、林業関係の雇用が進むだけでなく、関連部門への雇用も増え、

地域振興は軌道に乗ります。

◎当面の建設業関係の仕事について。現在すでに大きな環境影響を与えている堰、ダム等の対策として、砂利の流れを復活させ、生物の移動が可能になるような修復・保全の仕事があります。当面、地元業者の持続的な仕事を確保できます。

3、環境改善～生態系サービス増大の効果～次世代への義務

設楽ダムの建設を中止し、流域の森林を保全しつつ活用し、これまで痛んだ河川生態系を修復することによって、絶滅危惧種を保全し豊川～三河湾までの環境改善の目途も立ち、アユのすめる豊川、ヤマメドジョウやアサリが湧き、絶滅したハマグリやナメクジウオの復活をめざす豊川河口～三河湾を次の世代に受け継いでいくという次世代への義務を果たす展望が出てきます。

4、縦割り行政の改革

脱ダムで浮いた予算の一部を、森林整備を軸とした地域の再生のための費用に振り向けることは地方分権によって可能となります。中央政権の縦割り行政のままでは、治水特別会計の無駄な予算を、農林水産や福祉、教育方面に振り向けることは不可能です。地域が自立し、地域住民の必要に応じて予算が組まれる仕組みに変革していくことを同時に進めることが必要です。

(設楽ダム建設中止！愛知県民会議 共同代表 市野和夫 丸山悦子

事務局 奥宮芳子 〒440-0069 豊橋市御園町1-3 TEL0532-54-7305)

公開記念講演会開催のお知らせ

と き：平成23年2月13日（日）午後1：30～3：00

ところ：豊橋市民文化会館代4会議室

豊橋市向山大池町20-1（0532）61-5111

講 師：大熊 孝氏 新潟大学名誉教授

演 題：川の本質とこれからの治水のあり方～あふれることを受容する治水へ！

主 催：設楽ダムの建設中止を求める会

大熊 孝プロフィール／1942年生まれ。

現新潟県のダム検証委員会の委員長

著書に『川が作った川、人が作った川—川がよみがえるためには』（ポプラ社）、『洪水と治水の河川史—水害の制圧から受容へ』（平凡社）、『川辺の民主主義』（共著：ロシナンテ社）他、

「私が学生の時、洪水は無駄に流れていて、ダムは作るのには良いことだと思っていた。しかし、生態系のことなど考えた場合そうではないことが分かってきた。映画「阿賀に生きる」ができた1992年頃ようやく川とは何か分かってきた。川とは、地球における物質循環の重要な担い手であるとともに、人間にとって身近な自然で、恵みと災害という矛盾の中に、ゆっくりと時間をかけて、地域文化を育んできた存在である。ダムは川の物質循環を遮断する物であり、川にとって基本的に敵対物でしかない。しかしそのときに川にお願いしてダムを造ったのか、そうでないかは大きな違いがあった。もはやダムのない川はほぼ絶滅に近いのではないかと思われる。」(大熊孝教授最終講義より)

夏の自然観察会



平成22年8月28日段戸裏谷原生林で自然観察会を開催しました。観察会は好天に恵まれ、標高1000mを超える段戸裏谷原生林は、この夏の猛暑にもかかわらず涼しげで、ひと時の避暑となりました。観察会には2台のマイクロバスに分乗した39名の方が参加されました。自然観察会は、昨年同様、設楽町自然観察ガイドの加藤博俊氏の指導をいただきました。観察会は、午前と午後の2部構成となり、午前中

は、段戸裏谷原生林をトレッキングしながら観察会、午後は休憩所に集まり、森の働きや生態系についての勉強会と加藤博俊氏の取り組まれている活動についてのお話をいただきました。加藤博俊氏のユーモアを交えた説明と暖かい人柄に森林への知識が一層深まる会となりました。自然観察会では、これまで植栽活動を続けてきた設楽町田峯西川の水源森の生育状況がどうなっているかを知っていただくために、事前調査を実施し、生態写真やデータを掲載した資料を観察会資料として配布しました。(資料を入手したい方はNPO森を再生する会ホームページをご覧ください。

<http://www.katch.ne.jp/~kamiyaf18/>



夏の自然観察会アンケート結果

参加者39名

1、この取り組みに参加する前と比べ、森と緑の重要性について理解が深まりましたか？

- ①大変深まった 30
- ②少し深まった 9
- ③あまり深まらなかった 0

- ・木や森の重要性が良く理解できました。
- ・段戸山の自然の素晴らしさと保存の難しさを痛感した。
- ・木の大切をしみじみ感じた。
- ・ブナがとても大切な事が解りました。
- ・自然に触れる事が良かった。
- ・森林の力、海と山の自然の関係などがよく解った。

2、今後とも、こうした取り組みに参加したいですか？

- ①参加したい 39
- ②参加したくない

- ・もっと知識を深めたい。
- ・知らなかった身近な水の事を聞いて少しでも協力できたらと思います。
- ・身も心も洗われる。
- ・参加するたびに新しい発見や学習が有るから。

3、自由意見や感想をお聞かせください。



- ・加藤さんの人柄や思いが前回同様とてもよく伝わって楽しい1日になりました。
- ・バスの中でも皆さんと仲良くなりました。
- ・森の中に身をおき歩きながら貴重な説明を受け心の豊かさを感じる事が出来ました。次世代に向けて一人の人間として考えなければいけないヒントをいただいたように思います。
- ・鳥海山のブナ枯れの被害がひどいのを目のあたりにして、鳥肌が立ちました。今日の加藤さんの話では、見守るしかないと言う事を聞いて愕然としました。
- ・難しい話を加藤さんや、吉野さんの丁寧な説明で親切な説明していただき感謝します。
- ・講義の中で標本を使ったり、分かりやすい話で大変よく理解できました。
- ・加藤さんの講義は、実践を踏まえての話で楽しく、とても参考になりました。
- ・皆さんの熱心な取り組みに感謝します。
- ・段戸山の空気はやはり別世界体験をさせていただき、有難うございます。
- ・参加人数は観察会には丁度良いと思います。



森づくり講演会要旨



8月29日、三河安城シテイホテルにて日本熊森協会会長森山まり子氏の森づくり講演を開き、121名の市民が熱心に耳を傾けました。講演会の要旨は次のような内容でした。

先祖が手付かずを守ってきた奥山の自然林は、戦後の国土総合開発計画や拡大造林政策、道路、スキー場建設などにより荒廃し、野生動物たちは、住处と餌場を失いました。その結果、空腹に耐えかねた動物たちは、生きるために人里にでき来て農作物をあさるようになり、有害獣として駆除され続けています。しかし、大型野生動物たちと、かれらが造る豊かな森は人間にとって一番大切な水を供給する森であり、この森を残さなければ、私たち人間も生き残ることはできないということです。

また、中国ファンドなど外国資本が日本の山を買い始めているという話は由々しき問題であり、日本熊森協会は水源の森を守るために広大な奥山を買いトラス地とする実践的な活動をしていることに強い感銘を受けました。

特に昨今は熊の話題が多く、身近に感じられる問題となりました。野生動物の棲む豊かな森、そしてミネラル豊富な水を供給する森を次世代へと残すために、今後森づくりでは「動物たちが棲む奥山」と「人が利用する里山」を棲み分けすることが大切な考え方であることがわかりました。





金山スギ・ヒノキの人工林



自然生態系を無視した森造り
→林内は一年中暗く、下草も消滅。

- 雨が降る度に、表土流出
- 振った雨の多くはその日のうちに海へ。山の保水力弱い。川の水位がどんどん低下してくる。
- 台風や大雨の度に山崩れや洪水などの災害。
- 山にエサなし。野生動物たちが田畑に出て来る。



800m以上は、手付かずの自然林に戻す。
スギ・ヒノキは山の30%まで、パッチ状に。



豊かな生態系の復元
→林内は明るく、下草から低木~高木まで繁茂

- 保水力が高まる。水量豊かな湧水の復活。
- 台風や大雨でも崩れない強い森。
- エサ場復元。野生動物たちが山に帰る。
- 持続可能な林業の復活
(限なく手入れができ、採算性のある林業経営)

森の復元

強度間伐
生物による自然更新
広葉樹(潜在植生)植林



日本熊森協会ホームページより引用→

<http://kumamori.org/activity/field/okuyama/>

森山まり子氏講演会アンケート結果

1、この取り組みに参加する前と比べて、森や緑の重要性について理解が深まりましたか？

- ① 大変深まりました・・・ 68
- ② 少し深まった・・・ 9
- ③ あまり深まらなかった 0

理由

- 森山さんの熊や森に対する熱い思いに心を打たれました。
- 日本の森の現状がよくわかりました。このままでは日本が滅びの道をたどる予感がしました。
- 熊という大型動物が殺され、絶滅に向かっている現状から説明され放置人工林が原因であり、広葉樹の重要性がわかった
- 今回の講演で自然の重要性・偉大さがよく解りました。
- 同じ内容の話でも、実践団体の森山会長さん本人から直接聞くと、インパクトがありました。
- 日本は緑に包まれた山が割近くありますが、健全な森がなんと7%しかないのですね。
- 熊と人間が仲良しになれると良いですね。
- すべての生物が繋がって循環していることをあらためて知りました。
- 何とか急いで森を救ってゆきたいと思いました。家族や友達に呼びかけて植樹に参加

して、子供たちにも伝えて生きたいです。

- ・いろいろな森の事実を知ることが出来てよかった。
- ・日本の森の現状が良く理解できた。森は人間が作れないという言葉が印象的だった。
- ・原生林の重要性がよく解りました
- ・熊の住む事ができる森を守ることが重要なんですね！熊さん有難う。
- ・パワーポイント使って、熊森協会の活動をもとに森づくりの大切さを丁寧に話されたからよく解った。
- ・奥山（800メートル以上）と里山（800メートル以下）に分け、奥山は動物たちの領域、里山は人間が活用する山という棲み分けの考え方に納得した。
- ・大変わかりやすい話で、理解が深まった。大切な話なので多くの人に聞いてほしい。

2、今後とも、こうした取り組みに参加したいですか？

① 参加したい・・・・・・・・・・ 74

理由

- ・もっと勉強したい
- ・兼業農家として周りから緑が消えないようにしたい。
- ・人間にとって大切な森作り、水の問題に少しでもかかわって行きたい。
- ・生ある限り森は見守るべきものと思う。

② 参加したくない・・・・・・・・・・ 0

無回答・・・・・・・・・・ 3

3、その他、自由にご意見やご感想をお聞かせください。

- ・今の人間は熊を悪者にしてはいますが本当は人間の方が一番悪者だという事がわかった。
- ・自然との付き合い方を知らない人間が増えたことも大きい。
- ・森の大切さがよく解りました。
- ・中学生を教える先生のすごさにも感激しました。
- ・素晴らしい講演でした。（話し方、中身も）
- ・人工林とはもっと良いものだと思っていましたが意外でした。木を植えればよいというものではないのですね。手入れがされていない人工林は山を荒廃するだけだということがわかりました。
- ・森山先生の生き方が素晴らしいです。
- ・良いことを言う人は沢山いる。しかし実際にやる人は少ない。
- ・森山先生の言う”巻き枯らし“はとても有効だと思う。
- ・山の現状を考えると日本でもトラスト運動が盛り上がるとよい。
- ・小さな一滴から大河へ、一人の力から広がる行動へ、感動しました。御礼を申し上げます。
- ・残り少ない人生ですが、家族に代わって少しでも良くなる様協力できたらよいと思っています
- ・“行動することがいかに大切か”ということがよく解りました。
- ・感動して言葉がありません。



- ・色々と教えていただき有難うございました。感動しました。
- ・森山先生の活動は素晴らしい。少しは森に関心を持ちたいと思います。自然保護に目覚めました。
- ・日本人は心の奥に自然を愛する気持ちを持っています。次代を担う子供たちのために自然は守らなくてははいけません。生徒は偉大な力を持っているということ、森山先生の教育力に感動しました。
- ・未来の子供たちのために今、私たちの出来ることをやってみよう
- ・今日は大きな力をいただきました。有難うございました。科学は絶対自然に勝つことは出来ない。行政も水を守る活動をするべきだと思います。
- ・この活動を広めてほしいです。
- ・介護で毎日忙しく家にいましたが、今日はひさしぶりに外に出てとても夢のある話を聞くことが出来ました。有難うございました。
- ・国や自治体も早く日本の山を生態系豊かな森にしていくよう願わずにおられません。
- ・国会にも働きかけている森山会長のバイタリテイに感服した。本当に日本の将来を心配している姿が伝わってきた。これから応援したい。
- ・森を残し、全生物と共存しなければ、人間も生存できない！というメッセージに共感できた。

秋の植樹祭



平成22年10月31日に新城市作手植栽地にて秋の植樹祭開催しました。台風襲来のあいにくの天気でしたが、台風は太平洋を通過、小雨降る足元のぬかるむ中での植樹祭業となりましたが予定通り終了できたことは奇跡的でした。

た。そんな悪天候にもめげず、植樹祭には4台のマイクロバスに分乗した82名の方が参加されました。リピーターの方、家族づれの方のほか、これまで社をあげて継続して参加いただく豊安工業株式会社、ヤハギ建設株式会社等企業の皆さんが社会貢献事業として参加いただいたのが特徴的でした。両社ともこの機会にと多大なご寄付をいただき感謝です。

植樹祭は横浜国立大学修了の学術博士吉野知明氏（エスペックミック株式会社）に指導をいただきました。午前中は植樹祭とし、植樹祭終了後は、隣接する新城市の施設の中で五平餅やきのこ汁で体を温めながら意見交換や懇親会を楽しく行うことができました。

◆ 秋の植樹祭スケジュール ◆

- 8:00 集合出発（安城医師会館）
- 8:45 苗木配置、植え穴堀
- 10:00 植樹説明
- 10:15 植樹開始（指導：エスペックミック株式会社学術博士吉野知明氏）
- 11:00 セレモニー（挨拶：NPO 森を再生する会会長神谷輝幸氏）
- 12:00 昼食・質疑・意見交換、懇親会
- 16:00 解散（安城医師会館）

スタッフの皆さんご苦労様でした！



秋の植樹祭アンケート結果

参加者数 82名 アンケート回答者数 72名

1、この取り組みに参加する前と比べ、森との重要性について理解が深まりましたか。

- ① 大変深まった 56名
- ② 少し深まった 16名
- ③ あり深まらなかった 0名

2、今後とも、こうした取り組みに参加したいですか。

- ① 参加したい 70名
- ② 参加したくない 0名



3、その他、自由にご意見やご感想をお聞かせ下さい。

- ・植物に対する感心が強くなった。
- ・森林の現場を見ることにより、現状が分かり、また、先生達の説明により、今の日本で何が問題かその主旨が理解できた。
- ・人工造林の環境に対する非有効性や、昔からの住み分けの重要性について考えが改まった。
- ・専門の人の話を聞いてよく解ったから。
- ・説明がわかりやすかった。



- ・聞き慣れていない木の名前を知ることができ、もっとエコに興味をもったから。
- ・春秋と参加させて頂いて良かったと思えました。
- ・まだまだ知らない事だらけだと思うので。
- ・会長のスピーチわかりやすく良かったです。主旨がよくわかった。

- ・参加前は全然知識がなかったが、説明を聞いて色々なことがよく解った。
- ・是非広葉樹林に作りかえて四季の変化を実感にしたい。
- ・一度の体験では、森林の現状が実際の仕事についてまだ十分理解できないため・
- ・緑を増加させていくことが好きだから。
- ・良いとくみだと思います。
- ・学校の部活としても、いい参考になるので、もっと参加したいと思ったから。
- ・少しでもお役に立てればと思っております。
- ・初めて参加したがとても面白かった。苗の植え方等、ていねいな説明もあり大変良かった。
- ・日本の課題として、森林保護のための法整備と、その財源づくりが重要であると考えます。
- ・森林保護の仕事が人々の生活を支えるビジネスの仕組みも重要。
- ・またこのような企画をつくってどんどん緑を増やせたらいいと思う。
- ・このような事業が、もっと増えていくと、森も水も、それを利用する人間も、さらに、豊かになっていくと思いました。
- ・このような事業について大人だけでなく、子ども（小学生、中学生など）にも教える、体験する機会があるといいですね。
- ・せっかくの植樹、参加者が多くなるといいですね。
- ・今日まで、新月の日に木を切るといいなど知らない事だらけでした。まだまだ知るたのしみ動きたのしみがあると思いました。ありがとうございました。
- ・たいへんよかったです。植樹祭など参加したいのですが、あまり情報が入ってこないのので、PRをしてほしい。



- ・高齢者には、山道がきつかったです。天候のせいもあったかも。
- ・とても貴重な体験をさせていただき、美味しい五平もちなどのお食事もちょうそになり、ありがとうございました。
- ・インターネットの更新を早くして下さい。
- ・良い場所を提供していただきありがとうございました。

植樹祭裏方話

豊橋市

長澤 勇吉

最初に 前回春の植樹祭時アンケートの中で2点について説明します。

1、昼食時の五平餅が冷たかった。

計画では、参加者全員に焼いてもらおうと大きい炉も準備しておりましたが、雨の為朝方撤去しました。そこでスタッフがてんでこ舞いで焼いたわけです。

2、苗木の説明して欲しかった。



16種類サンプルを、参加していただいた人達に是非紹介しようと会場に準備しておりましたが、雨で時間がとれずやむを得ず中止しました。

今回の秋の植樹祭は、前回のことを踏まえて取り掛かりました。



当日早朝植樹舞台を点検。上空からの雨を立ち木が一度受けて、やわらかいしっとりした霧雨に、地面からは雨が上がる予感の水蒸気が林の中で霽っている会場を見ていると、夏から秋への舞台創りの苦勞が思い出された。特に今年は夏が暑かった。山と自然が好きな人達が日曜日に毎回10名から15名が集い間伐作業をし、1本でも多く植えられるように植樹スペースの確保がされた。

舞台創りに努力したみんなの苦勞が報われるとの思いがよぎったが、行事が開始される前苗木が到着。参加者が余り雨に濡れることなく作業していただく配慮のため、苗木を事前に山へ運び上げた。そしてスタッフが、ツルハシで穴あけ作業を実施し、植える間隔がほどよく確保された。雨の中、足場が不安定な状態の中、参加者がスムーズに植樹できました。そして、参加者が気がついたかどうか。会場登り坂道に、転倒防止の為にロープが細やかに丁寧に張られておりました。大半の人達が助かったと思います。色々な心配りがされておりましたが、女性スタッフ陣の昼の食事づくりが、真打でしょう。冷えた身体に少しでも暖かくと具たくさん熱い汁。そしてお楽しみの五平もち。自然がいっぱいの美味しい空気をたくさん身体いっぱい吸ってもおなかが満たない。朝早くから集合して駆けつけてくださった参加者のあかるい笑顔。いつもの情景が見られたが、今回も色々な心配りがされた植樹祭でした。

追記

また前回の春の植樹祭は、5月23日でしたので、桜の季節が過ぎており頂上の山桜の古木も残念がっていました。この古木は見事な花が咲きます。開花時期に誘い合わせて来山を！そして苗木の半年から1年の成長を、確認していただけると嬉しいです。



☆本年度へNPO森を再生する会へ寄付をいただいた方々☆

(寄付受付順)

○ 神谷 守 様	3,000円
○ 遠山松枝 様	120,000円
○ 丸山組 様	50,000円
○ 神谷俊治 様	10,000円
○ 加藤由紀子 様	10,000円
○ 都築トヨ 様	10,000円
○ 豊安工業チャリテイ 様	26,690円
○ ヤハギ緑化 様	50,000円
○ 国際ソロプチミスト安城 様	30,000円

過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。
これもひとえに会の活動をご理解いただいていることだと身にあまる光栄に存じます。水源の森作りに役立たせていきたいと思っています。